

天皇陛下の魚類学ご研究

展示目録



東京海洋大学附属図書館

会期 2009年7月1日(水) - 7月30日(木)

会場 東京海洋大学水産資料館2階展示室

ごあいさつ

このたび東京海洋大学では、本学附属図書館及び本学海洋科学部附属水産資料館の合同企画として、特別展示「天皇陛下の魚類学ご研究」を開催することとなりました。

天皇陛下は、日本魚類学会の会員として、長年に渡り、多忙なご公務の合間にハゼ類の分類のご研究をなされ、昭和38年(1963年)から現在までの45年間に31篇の論文を日本魚類学会の会誌「魚類学雑誌」と「Ichthyological Research」、「Proceedings of the Second International Conference on Indo-Pacific Fishes 1986」やオランダの国際遺伝学雑誌「Gene」に発表されておられます。

平成19年(2007年)5月、ロンドン・リンネ協会主催の「リンネ誕生300年記念行事」にご出席になられた天皇陛下は、「リンネと日本の分類学」と題して基調講演をなされましたが、この中で「私が研究を始めた頃、日本産の魚類を調べるのに常に用いていたのが1955年に出版された松原喜代松博士の『魚類の形態と検索』でありました。」と語られています。松原博士は本学の前身である水産講習所の出身であり、昭和22年(1947年)まで水産講習所教官として在籍し、その後京都大学に移られた日本の魚類学の先達の一人です。

また、天皇陛下は「私がハゼ亜目魚類を研究しようとした時、私に関心を持った二つの文献があります。一つはゴスライン博士の1955年に発表された『The osteology and relationships of certain gobioid fishes, with particular reference to the genera *Kraemeria* and *Microdesmus*』であり、もう一つは未公開の高木和徳博士の学位論文である『日本水域におけるハゼ亜目魚類の比較形態、系統、分類、分布および生態に関する研究』です。」とも語られています。高木博士は本学の前身である東京水産大学の出身ですが、最初に天皇陛下にご面識を得たのは昭和36年(1961年)のご進講の時とのことです。

このように天皇陛下のご研究に所縁のある本学が開催するこのたびの特別展示では、天皇陛下の長期に渡る一連のご研究の成果を広く皆様にご紹介するとともに、天皇皇后両陛下がご出席になられた「全国豊かな海づくり大会」に関する資料も展示いたします。

本年は天皇皇后両陛下ご成婚50年・ご即位20年にあたります。この記念すべき年に開催する本展が、ご来場いただいた皆様にとって天皇陛下の魚類学におけるご功績の一端をご理解いただく一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本展の開催にあたり、ご協力をいただきました関係各位の皆様にご挨拶を申し上げます。

平成21年6月

東京海洋大学長 松山優治

天皇陛下のハゼ学

東京水産大学名誉教授 高木和徳

天皇陛下は皇太子時代からハゼ類の系統分類学に取り組みられてこの道一筋に五十年余り、ご多忙な公務の中で精進を重ねておられます。このことは嘗て科学史家の伊東俊太郎教授が具に述べておられます。(註、本文末尾、参照) 肩胛骨の比較形態学(1963)以来31篇の著作を公刊され、そのご業績で早くから学界を先導して来られました。先帝昭和天皇以来の皇室での生物学研究を着実に誠実に継承しておられます。それは平和な科学立国を重要な国とする我国の象徴として国民の等しく敬愛するところです。この誠実なお人柄は、幼少期に受けられた小泉信三先生やエリザベス・G・ヴァイニング夫人の薫陶で磨かれたのでしょうか。

特に研究面でのそのようなお人柄には、私も折に触れて強い印象を受けています。そのいくつかを記します。

陛下にご面識を得たのは、先学の推挙を受けて、昭和36年(1961年)10月から12月にかけてのご進講です。赤坂御用地内にあった質素な研究室での対面授業でした。七回に分けて当時準備中だった学位論文の構想を基にした解説を終始熱心に聞いて頂きました。恐らく既に取り組んでおられた最初のご研究の参考にされたという熱意からのことと思われまふ。翌37年5月から一年ばかり、私は学位論文作成指導を受けるため、当時舞鶴市長浜にあった京都大学農学部水産学科に内地留学中でした。夕刻8時を過ぎるころ御所から舞鶴の下宿に電話でご研究中の問題点についてご下問を受けたのも印象深い出来事です。毎晩のように長時間の

質疑が続きます。そのご熱意に何時も敬服するばかりでした。論文を学会誌に投稿される段階では、素稿校閲のため御所に参上、ご指導に当っておられた我国ハゼ学の先駆、富山一郎先生と同席させて頂きました。午後3時ごろから深夜に及ぶことになりましたが、これも陛下のご熱意があった上のことです。国際的に高い評価を受けているご業績はこのような陛下の学問への誠実な取り組みの成果です。ここで特記したいのは、陛下が日本魚類学会に我々会員と同じく正会員として参加しておられることです。これも誠実なお人柄の表れと申せましょう。

研究活動を始められてからも、若手魚類学研究者たちの私的な討論会に参加され、学会の研究発表会では積極的に質疑に加わられるばかりでなく、夕刻の懇親会でも参加者と懇談を楽しんでいます。そこからは学界活動への参加を平素から心掛けておられるお姿が拝察されるのです。

このような生物学研究を実践しておられる陛下であればこそ、ご業績への国際的な高い評価が応えているでしょう。詳しくは既に伊東教授(上述)が事例を挙げておられますが、ここで特に王立協会キングチャールズ二世メダルについて付言します。この勲章は科学界に貢献して350年の歴史を誇る王立協会が、審議会の答申を受けて1997年に創設しています。慎重な審議によって、自国内での科学研究振興に顕著な貢献のあった国家元首に限って贈られるのですが、加えて格段の条件が整い、原則として国賓として招かれた場合に限られるなど、指名条件を厳しくしています。このような選考を経て、制定の翌年1998年陛下が最初の受賞者となりました。我々国民にとっても誇らしい評価です。なお現在他の受賞者は2007年のインド第11代(2002-2007)大統領で航空工学者のA. P. J. Abdul Kalma博士です。

【註】伊東俊太郎「天皇陛下と学問」文芸春秋, 77(10), 1999年10月号所収。

ハゼの標本ビン

天皇陛下が論文ご執筆のため高木和徳氏から借用されたシロズキンハゼが入っている標本ビン。当時のままのラベルが研究の歴史を物語る。現在は皇居内生物学研究所所蔵。



東京海洋大学と 魚類分類学

東京海洋大学教授 河野 博

松原新之助先生の「魚類目録」(Special-Katalog für die Japanischen Abtheilung der Internationalen Fischerei-Ausstellung zu Berlin*) (1880)をもって日本人の手による『魚類学』の嚆矢とする。松原新之助先生は、東京海洋大学の前身である水産講習所の初代専任所長を務めたが、東京医学校(後の東京大学医学部)時代に日本で初めて近代動植物学を教えたF.M. Hilgendorf教授(1873年から76年にかけて日本に滞在)から、とくに魚類学を学んだ。「魚類目録」は、1880年に開催されたベルリン万国水産博覧会に出展された魚類の学名や和名の目録である。その後、松原新之助先生は、日本の水産業の発展が日本の発展に寄与すると『より広い視野』をもって、大日本水産会と水産伝習所(水産講習所の前身)の創設に尽力された。

1884年には、キリスト教指導者として有名な内村鑑三先生が、農商務省嘱託時代に、日本産魚類640種の学名や和名などを載せた「日本産魚類目録」を作成している。しかし、これは当時、発表されることはなかった。なお、内村鑑三先生もまた、大日本水産会の創設に賛同し、水産伝習所では水産動物学の教鞭も執っている。

このような日本近代化の黎明期の魚類学は、残念ながら、後世の魚類学に直接的に大きな影響を与えることはほとんどなかった。

「近代魚類分類学の父」として一生を魚類分類学に捧げたのは、東京帝国大学理学部の田中茂穂先生である。D.S. Jordan, J.O. Snyder 両博士と共著で1913年に出版した「A catalogue of the fishes of Japan」(日本産魚類目録)は、それまでに知られていた日本産1,244種を系統的に列挙している。さらに、1911年から30年にかけて48巻にのぼる「日本産魚類図説」を發表し、287種の詳細な記載を行った。その続きを1958年59巻まで出版したのが、田中茂穂先生の弟子であった阿部宗明先生と富山一郎先生である。

*欧文書名は Abe, T. (1986) A brief history of Japanese ichthyology. Indo-Pacific Fish Biology:1-6 による。

阿部宗明先生は、後に東海区水産研究所でフグ類の分類を研究されるとともに、幅広い見識で戦後の日本の魚類学を先導された。

「日本のハゼ学の創始者」と呼ばれる富山一郎先生は、天皇陛下ご自身がチャールズ二世メダル受賞の御挨拶で「ハゼ類の研究を進める上でお世話になった方々…」と述べられているうちのお一人で、1936年に学位論文である「Gobiidae of Japan」(日本産ハゼ科魚類)を發表された。また、1952年から67年にかけて、世界最古の臨海実験所の一つに数えられる東京大学の三崎臨海実験所の所長を勤められた。

その一方で東京海洋大学の前身である水産講習所には、1925年に「現在の日本の魚類分類学に最も影響を与えた」人物が入学してくる。

松原喜代松先生である。

松原喜代松先生は、1929年に水産講習所を卒業すると同時に、動物学教室の寺尾新先生の助手に採用された。それ以来、1947年に京都大学の農学部水産学科の新設にもなう水産生物学講座の初代教授として転任されるまでのほぼ20年間、水産講習所で水産動物学と同実験を教授するとともに、100篇を超える論文を發表している。京都大学に移られてからは、数多くの弟子を育てるとともに、魚類学を志す者の必読書である「魚類の形態と検索」(1955)、「動物系統分類学 9(上)(中)」(1963)、あるいは「魚類学(上・下)」(1965)といった代表作を發表された。

なお、松原喜代松先生の『魚類分類学にかけた情熱』と数々の逸話については、5歳年下の同窓で、後に東京水産大学の魚類学講座の教授となる石山禮蔵先生の「特別寄稿」(1980)に詳しく紹介されている。

寺尾新先生の教室で松原喜代松先生の後輩として助手をしていたのが、久保伊津男先生である。後に、水産講習所では普通動物学と同実験を、また東京水産大学になってからは水産資源学を教授した。久保伊津男先生が水産資源学教室の教授時代に助手として勤めていたのが、高木和徳先生である。高木和徳先生は、天皇陛下の御挨拶の「ハゼ類の研究を進める上でお世話になった方々…」のお一人で、「日本水域におけるハゼ目魚類の比較形態、系統、分類、分布および生態に関する研究」(1962)などを發表されている。

さて、東京海洋大学の魚類分類学である。

松原喜代松先生が京都大学に転任された後、水産講習所は1949年に東京水産大学に、さらに2003年には東京商船大学と統合して東京海洋大学となった。動物学教室も、大学院修士課程の設置に備えた教室制から講座制への移行にもなつて1964年には魚類学講座になり、さらに大学院博士課程の設置や数回の改組を経て、現在では東京海洋大学海洋科学部海洋環境学科海洋生物学講座の中の専門分野として魚類学研究室が存続している。

このような大学院の設置や学科の改組、大学の統合という変化は、社会の変化にもなう大学の対応の現れである。それにもなつて、大学の教員や研究室に求められることや期待されることも、とくにこの10年ほどは、劇的に多様化している。

それを反映するかのように、松原喜代松先生が転任されてから今までのほぼ60年の間に私を除いて8人の先生方が魚類学研究室の教授を勤められたが、その研究内容は多岐にわたっている。魚類分類学を専門とされたのは、ガンギエイ科魚類の分類で知られている石山禮蔵先生(1965~74年に教授として在任)だけであろうか。

石山禮蔵先生が先の「特別寄稿」で述べているように、松原喜代松先生は淡水魚についてはまったく手を触れていなかった。魚類学研究室でその淡水魚の分類を行ったのは、私の師にあたる多紀保彦先生(1989~95年に在任)である。ただし多紀保彦先生は、より広い視野をもっていたのか単なる頑固者だったのか、あるいは両方だったのかは不明であるが、日本の淡水魚にはほとんど手を触れず、東南アジアの淡水魚を専門とされた。しかも目的は分類だけではなく、分類された魚類による生物地理学であった。

私もかつては骨学的視点と仔稚魚形態学的視点からサバ科魚類の系統分類を研究し博士号を取得した。しかし、東南アジアで魚類研究を始めると同時に、後者の方に力点を移し、現在では仔稚魚の形態学や生態学といった魚類の初期生活史を専門としている。

このように、松原喜代松先生が東京水産大学を去られてからは、魚類分類学が必ずしも継承されているわけではない。しかし、『魚類学』を研究するためには、基礎

的な分類学の素養が必要とされることは言うまでもない。したがって私たちの責務は、松原喜代松先生が遺してくださった『魚類分類学にかけた情熱』を内に秘めつつ、水産講習所初代所長松原新之助先生が身をもって示してくださった『より広い視野』をもって、『多面的な魚類学』を発展させていくことである、と強く感じている今日この頃である。

参考文献

Abe, T. (1986) A brief history of Japanese ichthyology. Indo-Pacific Fish Biology: 1-6

藤田清 (2009) 水産講習所における内村鑑三講述「水産動物学」の翻刻について。東京海洋大学研究報告 5: 1-39

石山礼蔵(1980)特別寄稿 松原喜代松先生見たまま聞いたまま。淡水魚(6):23-32

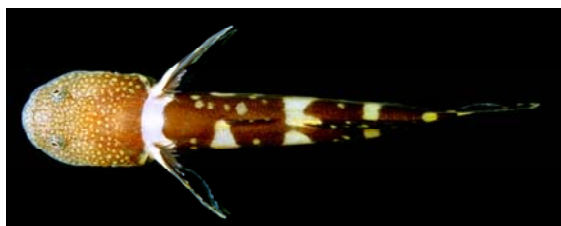
天皇陛下(1999)チャールズ二世メダル受賞 天皇陛下御挨拶(平成十年五月二十八日 英国王立協会)。文芸春秋 77(10): 115-116

時田郁・小林喜雄(1967) 内村鑑三の日本魚類目録(1884年、未発表)について。北海道大学水産学部研究彙報 18(3):137-182, 2 pl.

東京海洋大学附属図書館 図書館常設展示第1回—水産講習所初代所長 松原新之助— および第2回—水生動物図譜・目録—明治・大正期を中心として—
<<http://lib.s.kaiyodai.ac.jp/library/tenji/index.html>> 2009年6月8日アクセス

富山一郎(1975)田中茂穂先生に師事して。魚類学雑誌 22(2):119-124

キマダラハゼ(上からみた写真)



天皇陛下の ご論文・ご著書

- 1 明仁親王(1963)ハゼ科魚類の肩胛骨について。魚類学雑誌 11(1-2):1-26
- 2 明仁親王(1964)九州で採集されたヒトミハゼ。魚類学雑誌 12(1-2):1-6
- 3 明仁親王(1966)ウロハゼの学名について。魚類学雑誌 13(4-6):73-101

ウロハゼ



- 4 明仁親王(1967)日本産ハゼ科魚類カワアナゴ属の4種について。魚類学雑誌 14(4-6):135-166
- 5 明仁親王(1967)続ハゼ科魚類の肩胛骨について。魚類学雑誌 14(4-6):167-182
- 6 明仁親王(1969)ハゼ科魚類の中翼状骨、後鎖骨、鰓条骨、腹鰭、肩胛骨、眼下骨に基づく分類の検討。魚類学雑誌 16(3):93-114
- 7 明仁親王(1971)ハゼ科魚類の上顛顛骨について。魚類学雑誌 18(2):57-64
- 8 明仁親王(1972)神奈川県で採集されたマツゲハゼ *Oxyurichthys ophthalmonema* とその学名の検討。魚類学雑誌 19(2):103-110
- 9 明仁親王・目黒勝介(1974)ホシマダラハゼ(新称) *Ophiocara porocephala* とタメトモハゼ *Ophieleotris aporos* について。魚類学雑誌 21(2):72-84
- 10 明仁親王・目黒勝介(1975)西表島で採れたイワハゼ(新称) *Glossogobius celebius* について。魚類学雑誌 21(4):227-230

- 11 明仁親王・目黒勝介 (1975) 沖縄県産のハスジマハゼ (新称) *Cryptocentroides insignis* について. 魚類学雑誌 21(4):231-232
- 12 明仁親王・目黒勝介 (1975) 沖縄県産のスナゴハゼ (新称) *Pseudogobius javanicus* について. 魚類学雑誌 22(1):46-48
- 13 明仁親王・目黒勝介 (1975) ヒナハゼの学名について. 魚類学雑誌 22(1):49-52

ヒナハゼ



- 14 Prince Akihito and Katsusuke Meguro (1975) *Pandaka trimaculata*, a new species of dwarf goby from Okinawa Prefecture, Japan and the Philippines. Japanese Journal of Ichthyology 22(2):63-67
- 「沖縄県とフィリピンで採集されたハゼの新種 *Pandaka trimaculata* ミツボシゴマハゼ」
- 15 明仁親王・目黒勝介 (1975) ナメラハゼについて. 魚類学雑誌 22(2):112-116

ナメラハゼ



- 16 Prince Akihito and Katsusuke Meguro (1975) Description of a new gobiid fish, *Glossogobius aureus*, with notes on related species of the genus. Japanese Journal of Ichthyology 22(3):127-142

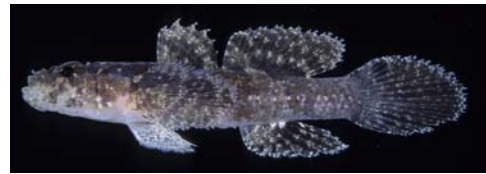
「ハゼ科魚類の1新種 *Glossogobius aureus* とその近縁種に対する特徴」

- 17 Prince Akihito and Katsusuke Meguro (1976) *Glossogobius sparsipapillus*, a new species of goby from Vietnam. Japanese Journal of Ichthyology 23(1):9-11

「ベトナムから採集されたウロハゼ属の1新種 *Glossogobius sparsipapillus*」

- 18 明仁親王・目黒勝介 (1977) 日本で採集されたオキナワハゼ属5種及びその類縁関係. 魚類学雑誌 24(2):113-127

オキナワハゼ



シュンカンハゼ



- 19 明仁親王・目黒勝介 (1977) 沖縄県石垣島で採集された日本初記録のウチワハゼ (新称) *Mangarinus waterousi*. 魚類学雑誌 24(3):223-226
- 20 明仁親王・目黒勝介 (1978) 沖縄県石垣島で採集された日本初記録のハゴロモハゼ (新称) *Myersina macrostoma*. 魚類学雑誌 24(4):295-299

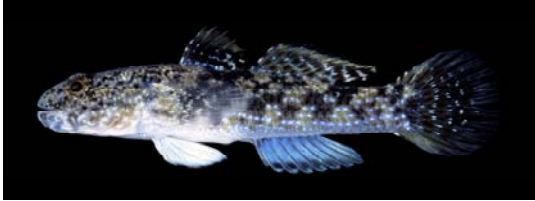
ハゴロモハゼ



- 21 明仁親王・目黒勝介 (1979) *Sicydium* 属と *Sicyopterus* 属の相違について. 魚類学雑誌 26(2):192-202

- 22 明仁親王・目黒勝介 (1980) 日本で採集されたクモハゼ属 *Bathygobius* 6 種について. 魚類学雑誌 27(3):215-236

スジクモハゼ



ヤハズハゼ



- 23 明仁親王・目黒勝介 (1981) シロズキンハゼの学名および形態的特徴. 魚類学雑誌 28(3):329-339

シロズキンハゼ



- 24 Prince Akihito and Katsusuke Meguro (1983) *Myersina nigrivirgata*, a new species of goby from Okinawa Prefecture in Japan. Japanese Journal of Ichthyology 29(4):343-348

「沖縄県で採集された新種 *Myersina nigrivirgata* クロオビハゼ」

クロオビハゼ



- 25 明仁親王 (1984) ハゼ科魚類の進化. 科学サロン 8(3)(通巻 30 号):7-13

日本産魚類大図鑑の出版を記念し、出版社の要請により寄稿された和文小論。

- 26 明仁親王・林公義・吉野哲夫・島田和彦・瀬能宏・山本隆司 (1984) ハゼ亜目. pp. 228-276, pls.235-258, 353-355 in 益田一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編 「日本産魚類大図鑑」. 初版. 東海大学出版会, 東京

- 27 Prince Akihito, M. Hayashi, T. Yoshino, K. Shimada, H. Senou and T. Yamamoto (1984) Suborder Gobioidi. pp. 236-289, pls. 235-258, 353-355 in H. Masuda, K. Amaoka, C. Araga, T. Uyeno and T. Yoshino eds. The fishes of the Japanese Archipelago. First English edition. Tokai University Press, Tokyo

日本産魚類大図鑑 英語版 初版

- 28 Prince Akihito (1986) Some morphological characters considered to be important in gobiid phylogeny. pp. 629-639. in T. Uyeno, R. Arai, T. Taniuchi and K. Matsuura eds. Indo-Pacific Fish Biology : Proceedings of the Second International Conference on Indo-Pacific Fishes. Ichthyological Society of Japan

「ハゼ科魚類の系統に重要と考えられる幾つかの形態上の特徴」、名誉総裁をお務めになった第二回太平洋・インド洋の魚類に関する国際研究会議で口頭発表(英語)され、同会議報告書に掲載された。

- 29 明仁親王 (1987) チチブ類. pp. 167-178 in 水野信彦・後藤晃編 「日本の淡水魚類：その分布、変異、種分化をめぐって」. 東海大学出版会, 東京

- 30 Prince Akihito and Katsusuke Meguro (1988) Two new species of goby of the genus *Astrabe* from Japan. Japanese Journal of Ichthyology 34(4):409-420

「日本で採集されたシロクラハゼ属の 2 新種」
キマダラハゼ



- 31 明仁親王・林公義・吉野哲夫・島田和彦・瀬能宏・山本隆司 (1988) ハゼ亜目. pp. 228-276, 455, pls. 235-258, 353-355, 375 in 益田一・尼岡邦夫・荒賀忠一・

上野輝彌・吉野哲夫編「日本産魚類大図鑑」. 第2版. 東海大学出版会, 東京

- 32 Prince Akihito, M. Hayashi, T. Yoshino, K. Shimada, H. Senou and T. Yamamoto (1988) Suborder Gobioidi. pp. 236-289, 445. pls. 235-258, 353-355, 375 in H. Masuda, K. Amaoka, C. Araga, T. Uyeno and T. Yoshino eds. The fishes of the Japanese Archipelago. 2nd English edition. Tokai University Press, Tokyo

日本産魚類大図鑑 英語版 第2版

- 33 明仁・坂本勝一(1989)シマハゼの再検討. 魚類学雑誌 36(1):100-112

天皇陛下御即位後の最初の論文。

- 34 明仁・岩田明久・坂本勝一・池田祐二(1993)ハゼ亜目. pp. 997-1087, 1355-1366 in 中坊徹次編「日本産魚類検索 - 全種の同定-」. 初版. 東海大学出版会, 東京

- 35 明仁・坂本勝一・岩田明久・池田祐二(1993)ハゼ亜目頭部感覚器官. pp. 1088-1116 in 中坊徹次編「日本産魚類検索 - 全種の同定-」. 初版. 東海大学出版会, 東京

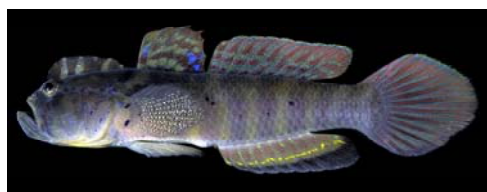
- 36 明仁・岩田明久・坂本勝一・池田祐二(1995)ハゼ亜目. pp. 997-1087, 1355-1366, 1378 in 中坊徹次編「日本産魚類検索 - 全種の同定-」. 初版補訂第2刷. 東海大学出版会, 東京

- 37 明仁・坂本勝一・岩田明久・池田祐二(1995)ハゼ亜目頭部感覚器官. pp. 1088-1116 in 中坊徹次編「日本産魚類検索 - 全種の同定-」. 初版補訂第2刷. 東海大学出版会, 東京

- 38 Akihito and Katsusuke Meguro (2000) Review of the gobiid genus *Cristatogobius* found in Japan with description of a new species. Ichthyological Research 47(3):249-261

「日本で採集された1新種の記載を含むトサカハゼ属の再検討」

トサカハゼ



- 39 明仁・坂本勝一・池田祐二・岩田明久(2000)ハゼ亜目. pp.1139-1268, 1606-1628 in 中坊徹次編「日本産魚類検索 - 全種の同定-」. 第2版. 東海大学出版会, 東京

- 40 明仁・坂本勝一・池田祐二・岩田明久(2000)ハゼ亜目頭部感覚器官. pp.1269-1310 in 中坊徹次編「日本産魚類検索 - 全種の同定-」. 第2版. 東海大学出版会, 東京

- 41 Akihito, A. Iwata, T. Kobayashi, K. Ikeo, T. Imanishi, H. Ono, Y. Umehara, C. Hamamatsu, K. Sugiyama, Y. Ikeda, K. Sakamoto, Akishinomiya Fumihito, S. Ohno and T. Gojobori (2000) Evolutionary aspects of gobioid fishes based upon a phylogenetic analysis of mitochondrial cytochrome *b* genes. Gene 259(1-2):5-15

「ミトコンドリア・チトクローム *b* 遺伝子の分子系統学的解析に基づくハゼ類の進化的考察」、秋篠宮殿下も加わった共同研究。

- 42 Akihito, K. Sakamoto, Y. Ikeda and K. Sugiyama (2002) Gobioidi. pp. 1139-1268, 1596-1619 in T. Nakabo ed. Fishes of Japan with pictorial keys to the species. English edition. Tokai University Press, Tokyo

「日本産魚類検索 - 全種の同定 -」の英語版(ハゼ亜目魚類)

- 43 Akihito, K. Sakamoto, Y. Ikeda and K. Sugiyama (2002) Cephalic sensory organs of the gobioid fishes. pp. 1269-1310 in T. Nakabo ed. Fishes of Japan with pictorial keys to the species. English edition. Tokai University Press, Tokyo

「日本産魚類検索 - 全種の同定 -」の英語版(ハゼ亜目頭部感覚器官)

- 44 Akihito, Katsusuke Meguro and Katsuchi Sakamoto (2003) A new species of gobiid fish, *Cristatogobius*

rubripectoralis, from Australia. Ichthyological Research 50(2):117-122

「オーストラリアで採集されたハゼ科トサカハゼ属の1新種 *Cristatogobius rubripectoralis*」

- 45 Akihito, Akishinomiya Fumihito, Y. Ikeda, M. Aizawa, T. Makino, Y. Umehara, Y. Kai, Y. Nishimoto, M. Hasegawa, T. Nakabo, and T. Gojbori (2008) Evolution of Pacific Ocean and the Sea of Japan populations of the gobiid species, *Pterogobius elapoides* and *Pterogobius zonoleucus*, based on molecular and morphological analysis. Gene 427(1-2):7-18

「DNAと形態の解析に基づくハゼ科魚類、キヌバリとチャガラの太平洋側および日本海側の地域集団の進化」、秋篠宮殿下も加わった共同研究。

キヌバリ



チャガラ



天皇陛下の魚類学 以外のご論文等

- 46 Akihito (1992) Early cultivators of science in Japan. Science 258(5082):578-580

アメリカの科学雑誌サイエンスの日本特集号に、発行者の要請により「日本の科学を育てた人々」(英文)を寄稿された。

- 47 明仁 (1999) 日本の科学を育てた人々. 文藝春秋 77(10):95-101

Science の日本特集号(1992)の英文の論説のもとになった日本語原稿。

- 48 明仁 (1999) ハゼ科魚類の進化. 文藝春秋 77(10):107-114

科学サロン 8 巻 3 号(1984)に発表された論説の再録。

- 49 His Majesty The Emperor of Japan (2007) Linnaeus and taxonomy of Japan. Nature 448:139-140

イギリスの科学雑誌ネイチャーに掲載された記事。ロンドン・リンネ協会主催のリンネ生誕 300 年記念行事における「リンネと日本分類学」と題する基調御講演(英語)の記録。

- 50 天皇陛下 (2007) 天皇陛下基調御講演「リンネと日本の分類学」: 生誕三百年を記念して. 日本學士院紀要 62(2):131-140

平成十九年五月二十九日、ロンドン・リンネ協会に於ける基調御講演(英語)の日本語原稿。

- 51 Sako, T., S. Kawada, M. Teduka, T. Uesugi and Akihito (2008) Seasonal food habits of the raccoon dog, *Nyctereutes procyonoides*, in the Imperial Palace, Tokyo. Bulletin of the National Science Museum. Series A. Zoology 34(2):63-75

「皇居におけるタヌキの食性とその季節変動」

天皇陛下がハゼのご研究 の際に参考にされた論文

以下の資料では、*の資料のみを展示している。

Gosline, William A.

- *52 Gosline, William A (1955) The osteology and relationships of certain gobioid fishes, with particular reference to the genera *Kraemeria* and *Microdesmus*. Pacific Science 9(3): 158-170

53 Gosline, William A (1971) Functional morphology and classification of teleostean fishes. University Press of Hawaii, 208p.

とみやまいちろう
● 富山一郎

*54 Tomiyama, Itiro (1936) Gobiidae of Japan. Japanese Journal of Zoology 7(1): 37-112

● 海老名謙一

55 海老名謙一 (1934) 小湊産魚類二新種. 水産講習所研究報告 30(3): 127-133

● 高木和徳

56 高木和徳(1950) ハゼ科魚類の舌咽骨に見られる系統について. 魚類学雑誌 1(1):37-52

57 Takagi, Kazunori (1953) A study on the scale of the gobiid fishes of Japan. Journal of the Tokyo University of Fisheries 39(2):231-253, 7 pl.

58 Takagi, Kazunori (1957) Descriptions of some new gobioid fishes of Japan, with a proposition on the sensory line system as a taxonomic character. Journal of the Tokyo University of Fisheries 43(1):97-126, 2 pl.

*59 高木和徳(1962) 日本水域におけるハゼ亜目魚類の比較形態、系統、分類、分布および生態に関する研究. 未公刊資料, 273 p.

*60 Takagi, Kazunori (1988) Cephalic sensory canal system of the gobioid fishes of Japan: Comparative morphology with special reference to phylogenetic significance. Journal of the Tokyo University of Fisheries 75(2):499-568

お写真

61 明仁親王東京水産大学小湊実験場御見学 昭和23年(1948年)1月7日

62 東宮御所研究室にて 昭和59年(1984年)

63 天皇陛下、英国王立協会から、科学の進歩に顕著な貢献のあった元首に贈られる「チャールズ二世メダル」の初の受賞者となられる 平成10年(1998年)5月

64 日本水産学会創立70周年記念国際シンポジウムレセプション御出席 平成13年(2001年)10月1日

65 天皇陛下、スウェーデン御訪問の折、リンネが教鞭を執っていたウプサラ大学より、名誉学員のメダルと証書を贈られる 平成19年(2007年)5月

東京海洋大学の魚類学 研究を支えた人々と その論文

● 松原新之助

*66 松原新之助講義; 菖蒲治太郎筆記 (年不明) 水産動物学

● 内村鑑三

67 内村鑑三(1884, 未発表) 日本魚類目録

日本人による最初の本格的な日本産魚類目録。本書は発表されておらず、内村鑑三の自筆稿本が北海道大学附属図書館に所蔵されている。翻刻資料。(p. 4 参照)

*68 内村鑑三講述(1889) 水産動物学

水産傳習所第一回生に対して行われた講義の筆録。翻刻資料(p. 4 参照)

てらおあらた
● 寺尾新

*69 寺尾新(1922) 摂政宮殿下御採集の猩々蝦. 科学知識 2(4):345, 1 pl.

70 Terao, Arata (1922) A new decapod crustacean, *Sympasiphaea imperialis*, n. sp. Annot. Zool. Japon. 10(10):109-113

かみやたかゆき

● 神谷尚志

- 71 神谷尚志 (1916) 館山湾ニ於ケル浮性魚卵並ニ其稚児. 水産講習所試験報告 11(5):1-92, 5 pls.
- 72 神谷尚志 (1922) 館山湾ニ於ケル浮性魚卵並ニ其稚仔 第二報. 水産講習所試験報告 18(3):1-22, 3 pls.
- 73 神谷尚志 (1922) 瀬戸内海ニ於ケル浮性魚卵並ニ其稚仔. 水産講習所試験報告 18(3):23-39, 2 pls.
- 74 神谷尚志 (1925) 館山湾ニ於ケル浮性魚卵並ニ其稚仔(第三報). 水産講習所試験報告 21(3):71-85, pl.2
- 75 神谷尚志 (1925) 北陸沿海ニ於ケル浮性魚卵並ニ其稚仔. 水産講習所試験報告 21(3):86-106, pl. 3-4

なかむらしゅうや

● 中村秀也

- 76 中村秀也 (1933) 小湊附近に現はれる磯魚の幼期 [其一]. 養殖会誌 3(9):145-148
- 77 中村秀也 (1933) 小湊附近に現はれる磯魚の幼期 [其二]. 養殖会誌 3(10):169-172
- 78 中村秀也 (1934) 小湊附近に現はれる磯魚の幼期 [其三]. 養殖会誌 4(3):45-49
- 79 中村秀也 (1934) 小湊附近に現はれる磯魚の幼期 [其四]. 養殖会誌 4(6):103-108
- 80 中村秀也 (1934) 小湊附近に現はれる磯魚の幼期 [其五、六]. 養殖会誌 4(7-8):121-132
- 81 中村秀也 (1934) 小湊附近ノ魚卵及ビ稚魚 I いたてんかじか. 水産講習所研究報告 30(3):135-140
- 82 中村秀也 (1935) 小湊附近に現はれる磯魚の幼期 [其八]. 養殖会誌 5(3-4):35-44
- 83 中村秀也 (1935) 小湊附近に現はれる磯魚の幼期 [其九]. 養殖会誌 5(5-6):84-89
- 84 中村秀也 (1935) 小湊附近に現はれる磯魚の幼期 (其十). 養殖会誌 5(7-8):127-132

- 85 中村秀也 (1935) 小湊附近に現はれる磯魚の幼期 (其十一). 養殖会誌 5(9-10):159-164
- 86 中村秀也 (1935) 小湊附近に現はれる磯魚の幼期 (其十二). 養殖会誌 5(11-12):191-195
- 87 中村秀也 (1936) 小湊附近に現はれる磯魚の幼期 (其十三). 養殖会誌 6(1):9-13
- 88 中村秀也 (1936) 小湊附近に現はれる磯魚の幼期 (其十四). 養殖会誌 6(7-8):133-139
- 89 中村秀也 (1936) 小湊附近稚魚幼魚ノ研究 II-VI. 水産講習所研究報告 31(2):135-175
- 90 中村秀也 (1937) 小湊附近ノ魚卵及稚魚 VII-VIII. 水産講習所研究報告 32(1):15-23
- 91 中村秀也 (1937) 小湊附近に現はれる磯魚の幼期 (其十五). 養殖会誌 7(7-8):135-144

まつばらき よまつ

● 松原喜代松

- 92 松原喜代松・檜山義夫 (1932) 日本及び其ノ近海産ほうぼう科魚類ノ分類学的研究. 水産講習所研究報告 28(1):47-103
- 93 松原喜代松 (1933) 本邦及び其ノ近海産ひげだひ属ノ分類学的研究. 水産講習所研究報告 28(2):111-130
- 94 松原喜代松 (1934) 本邦産かさご科魚類ノ研究 第一報 一新属五新種ノ記載. 水産講習所研究報告 30(3):117-126
- 95 松原喜代松 (1936) 本邦産かさご科魚類ノ研究 第三報 *Sebastichthys longispinis* Mihni ノ外部及ビ内部形態並ビニ新名 *Sebastichthys brevispinis* トノ比較. 水産講習所研究報告 31(2):87-102
- 96 松原喜代松 (1936) 本邦産かじか型魚類ノ二属, *Ereunias* 及ビ *Marukawichthys* ノ比較研究並ビニ分類上ノ位置ニ就テ. 水産講習所研究報告 31(2):103-118
- 97 松原喜代松 (1936) 本邦産阿代型魚類ノ一新種並ニ一稀種. 水産講習所研究報告 31(2):119-122

- 98 松原喜代松 (1936) 本邦産てんぢくだひ型魚類二種ノ分類ヲ主眼トスル生物測定学的研究. 水産講習所研究報告 31(2):123-134
- 99 松原喜代松 (1937) 本邦産深海魚ノ研究 第三報 分類ヲ主眼トシテ見たくろめくらうなぎ *Paramyxine atami* Dean ノ顕著ナ個体変異ニ就テ. 水産講習所研究報告 32(1):11-13, 1 pl.
- 100 松原喜代松 (1937) 本邦及ビ其ノ近海産にベ科魚類. 水産講習所研究報告 32(2):25-86
- 101 松原喜代松 (1938) 本邦産あかえそ属魚類ノ分類学的研究. 水産講習所研究報告 33(1):1-34
- 102 松原喜代松 (1938) 本邦産深海魚ノ研究 (第六~第八報). 水産講習所研究報告 33(1):35-62
- 103 松原喜代松 (1942) ぎすノ変態ニ就イテ. 水産講習所研究報告 35(1):1-23, 1 pl.
- *104 Matsubara, Kiyomatsu (1943) Studies on the scorpaenoid fishes of Japan. Anatomy, phylogeny and taxonomy. (1)-(2). Transactions of the Sigenkagaku Kenkyusho. No.1-2
- *105 松原喜代松 (1955) 魚類の形態と検索. Part 1-3 石崎書店
- 106 松原喜代松 (1963) 系統分類学 9 卷 (上-中) 脊椎動物 (Ia-Ib) 魚類. 中山書店
- 107 松原喜代松・落合明・岩井保 (1965) 魚類学 上、下 (水産学全集 9,19 卷). 恒星社厚生閣

● 黒沼勝造

- 108 J. R. ノルマン 著、P. H. グリーンウッド校訂、黒沼勝造・上野達治共訳 (1970) 定訳魚の博物学. 社会思想社
- 109 Kuronuma, Katsuzo and Yoshitaka Abe (1972) Fishes of Kuwait. Kuwait Institute for Scientific Research
- 110 Kuronuma, Katsuzo and Yoshitaka Abe (1972) Fishes of the Arabian Gulf. Kuwait Institute for Scientific Research
- 111 Kuronuma, Katsuzo (editor) (1974) Arabian Gulf fishery-oceanography survey by the Umitaka-Maru, training-research vessel, Tokyo University of Fisheries with collaboration of Kuwait Institute for Scientific Research, December 1968. Transactions of the Tokyo University of Fisheries No.1

● 石山禮蔵

- 112 Ishiyama, Reizo (1958) Observations on the egg-capsules of skates of the family Rajidae, found in Japan and its adjacent waters. Bulletin of the Museum of Comparative Zoology at Harvard College 118(1):1-24
- 113 Ishiyama, Reizo (1958) Studies on the rajid fishes (Rajidae) found in the waters around Japan. Journal of the Shimonoseki College of Fisheries 7(2-3):193-394, 3 pl.
- 114 Ishiyama, Reizo (1967) Fauna Japonica. Rajidae (Pisces). Biogeographical Society of Japan

協力 宮内庁(写真提供) 皇居内生物学研究所 (標本貸与) 国立科学博物館 (資料貸与)
高木 和徳 (資料貸与) 藍澤 正宏 (写真提供) 読売新聞社 (写真提供)

特別展示 天皇陛下の魚類学ご研究

発行日 2009年6月30日
編集・発行 東京海洋大学附属図書館
〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7
TEL 03-5463-0444 FAX 03-5463-0445
<http://lib.s.kaiyodai.ac.jp>
©東京海洋大学附属図書館